高座小学校区の子供たちの豊かな心の育成を目指して

―幼保小連携における，よりよい仲間づくりを通して―

春日井市立高座小学校

＜連携校：春日井市立高座保育園・私立高蔵寺幼稚園＞

１　実践のねらい

⑴　「たかくらサミット会議」を通して，地域を元気にする取組を計画・推進するとともに，校区内の幼稚園・保育園・小学校と地域が積極的に連携をとり，協働して児童や園児の健やかな成長を促す。

⑵　小学校入学前後の不安や心配などによって起こる，園児の「小１プロブレム」を防ぐため，入学前から児童と交流する機会を積極的に設けるとともに，地域の方の協力も仰ぎながら，幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る。

⑶　６年間の小学校生活の中で，意図的に園児と交流する機会を設けるとともに，地域の方と一緒に活動する機会をもつことを通して，他人を思いやり，地域の一員として積極的に働き掛けることができる「豊かな心」の育成を図る。

【たかくらサミット会議】

２　実践の内容

⑴　たかくらサミット会議

７月・１２月・２月に高座小学校で，高蔵寺幼稚園・高座保育園・高座小学校・市議会議員・高蔵寺コミュニティ推進協議会・老人会・高蔵寺地区社会福祉協議会・高蔵寺区・学校評議員・高座小学校ＰＴＡ・高蔵寺中学校地区児童生徒健全育成連絡協議会・民生委員児童委員協議会の代表の皆さんを招き，たかくらサミット会議を開催した。会議では，幼稚園・保育園・小学校の連携の仕方や地域を元気にする活動について話し合った。

⑵　園児との交流

ア　１年生

１０月に幼稚園・保育園の年長児を迎え，生活科の授業で作成したおもちゃを使って交流する「あきあそびランド」を開催した。

イ　２年生

「体験入学」で，幼稚園・保育園の年長児に２年生の学習の様子を見てもらった。園児たちは小学校のお兄さんお姉さんを憧れのまなざしで見つめており，小学校生活に期待を抱いたようであった。

【園児と仲良く花プロジェクト】

ウ　４年生

「体験入学」に参加する幼稚園・保育園年長児に楽しんでもらうため，手造りの磁石付きペンダントと練習してきた歌のプレゼントをした。

エ　５年生

本校の運動会で行われる「年長児玉入れ」に参加する園児のために，手作りのくまのワッペンをプレゼントする計画を立て，家庭科で勉強した裁縫で作成した。また，当日は一緒に競技に参加し，園児たちの喜ぶ姿を見ることで，４月からは面倒を見てあげたいという気持ちを高めることができた。

オ　６年生

「たかくら花プロジェクト」という名称で園や老人憩いの家へ花のプレゼントをするため，児童と園児が協力し，春にはニチニチソウの移植作業，秋にはパンジーの移植作業を行った。この交流を通して，児童は園児や高齢者から「また，一緒にやりたい」「もらった花を大切に世話するよ」などの言葉を頂いたことで，地域のために貢献できたと

いう思いをもったようであった。そして，いつの間にかこの活動に「花プロ」という愛称を付け，毎回楽しみにしている姿が見られ，交流の深まりが活動へのエネルギーとなっていることを実感することができた。

(3) 地域との交流

ア ３年生

社会の昔調べの学習と関連させ，地域の年長者に協力を仰ぎ，七輪を使ったもち焼き体験を行った。レンジやオーブンですぐにできるのではなく，徐々に形が変化し，焼き上がっていく餅の様子に，参加した児童たちは全員興味津々であり，その味のよさに驚いていた。炭の火入れなど，年長者の知恵に感動するとともに，伝統のすばらしさを認識することができた。あわせて，それらのよさを伝えていくことの大切さを実感することができた。

イ ６年生

高齢者の「憩いの家」の訪問を継続的に行っている。回を重ねるごとに「どのようにしたら心豊かに楽しんでいただけるのか」を考え，工夫して交流をしていく児童が多くなった。高齢者の方からは「児童の皆さんから，元気を頂いたよ」「また来てくれることを楽しみにしています」といった感想が寄せられた。また，中には「交流できてとてもよかった。今日だけでなく，個人的にもう一度交流したい」と感想に書く児童もおり，自ら地域の方と積極的に交流をしていこうと意欲を感じることができた。

(4) 児童・園児・地域が一体となった交流

○ たかくらもちつき大会

様々な活動を通して，「同じ地域に住む一人として，地域の中で自分たちが何をすることが大切なのか」を考えることができるようになってきた児童は，地域の皆を巻き込んだ行事「たかくらもちつき大会」を企画した。さらに，実行委員となった児童を中心に，行事を盛り上げるため，園児や地域の方と一緒になって「ふれあいタイム」を実施した。

大会後，園児からは「一緒にゲームができて楽しかった」「初めておもちつきをやってうれしかった」といった声が聞かれた。地域の方からも「こういう場に参加・交流できて，とても有意義な一日になった」など感謝の言葉を多く頂いた。そして，６年生の児童は「やってよかった」「皆から感謝の言葉をもらってうれしかった」と述べており，これからも地域の方に喜んでいただける活動に積極的に関わりたいという思いを強くもったようであった。

(5) 幼保小の教員の交流

幼保小が連携するためには，その垣根を越えた教員の交流やサミット会議の児童理解・学校理解が不可欠である。このため，夏に講師を招き，互いに研修を深めた。

３ 実践の成果と課題

１月末に行った「もちつき大会」当日は，１２０名の児童，５４名の園児，１５３名の地域の方の参加を得た。そこでは，６年生が中心となって園児の安全に気を配り，地域の方の声かけに笑顔で応えながら活動し，会を心から楽しむ児童の姿があった。また，老人福祉施設や幼稚園・保育園児との交流では「また行きたいなあ」という声を全ての学年の児童から数多く聞くことができ，様々な取組を経て，自らが地域のかけがえのない一員である自覚を培うことができた。

園児に目を向けると，学校での交流を楽しみ，園での交流を通して，児童に笑顔で声をかけ，帰るときには別れを惜しむ姿を見ることができた。このように互いの人間関係がしっかりと育まれたことから，入学後に「小１プロブレム」を起こすことはないだろうという思いを強くした。

最後の「たかくらサミット会議」では，地域の方から「これらの行事の成果を，ぜひ来年度以降につなげてほしい」という要望があった。これからも地域の方の応援や期待に応えるべく，ＰＤＣＡサイクルに基づき，地域を元気にする幼保小連携を進めていきたい。